

MAHO SATO

ARTIST STATEMENT

身体に住む

私のアートは自分自身のカラダに「住む」実践からはじまります。呼吸する、歩く、食べる、絵を描く、踊る、掃除をする日々の行為を瞑想するように丁寧に意識して行います。そうすることで私は自身の内側につながり外側へとアート表現をする準備を整えます。

自然と身体

1 人静かに自然のなかを歩くことは「カラダは自然のいちぶ」である感覚を蘇らせてくれます。自然に触れ、彼らの呼吸、時間軸を深く観察し共存することは、創作を始める前に原点回帰できる、私にとって大切な儀式の1つです。

<https://www.mahosato.com/tree>

心と身体に刻まれたパーソナルな記憶

私のアートは今まで生きてきたなかで「心と身体に刻まれたパーソナルな記憶」をもとに生じます。身体表現、ペインティング、写真、インスタレーションという4つの方法をその時の感覚により選び「記憶」を視覚可能な作品へと表現していきます。日本に住む最愛の祖母が亡くなった際に、遠く離れた祖母へ祈りの踊りを捧げ、その時の感情の移り変わりをペインティングで表現した作品「感情の地図」をつくりました。この行為を通じて苦しい感情を前に進む原動力と変容することができました。アートは私自身にもどることのできる居場所であり、それを体験し感じることを可能にしてくれます。

<https://www.mahosato.com/grandmother>

コレクティブアート

2020年1度目のロックダウン解除後、自身が住むフィレンツェで地域の人々を交えてのコレクティブアート作品「フィレンツェ感情の地図」をつくりました。手と手が握手する写真と会話を通じて生まれるこの作品では、国籍や文化を超え人間と人間の心の通い合いを深く感じました。様々な文化習慣に生きる人々と一緒にこの地図をさらに広げていくことが自身のアート研究の1つになりました。

<https://www.mahosato.com/tactlity>

WORKSHOP NATURACORPO コレクティブ アート エクスペリエンス

自然からインスピレーションを受け、身体と色彩で自分自身の感情を表現する作品を創作中に、生命力がカラダに漲るという感覚を覚え、この経験を入々と共有したいという思いから、ワークショップ「NATURACORPO コレクティブ アート エクスペリエンス」を通じて共同制作の作品のクリエーションをフィレンツェにてスタートしました。

<https://www.mahosato.com/workshop>

アートとは神聖であり瞑想的で自身の内に宿る力を呼び起こすアクションです。アーティストとは自分自身の真実に生きながら外の世界へと繋がり美を共有する人のことです。

MAHO SATO

BIOGRAPHY

1999年大学が主催した美術研究旅行ではじめてイタリアを訪れる。イタリア人の美意識の高さ、日常生活の中でアートに触れる空間が存在していることに深く感銘を受ける。2000年横浜美術大学卒業。色彩が心に及ぼす影響に興味を持ち色彩学を学ぶ。東京にてインテリアデザイン会社、イベント制作会社での経験により空間演出の素晴らしさを体験する。その後コミュニケーションPRの仕事を得て、2008年自身のアートをさらに深めるためにイタリアへ渡欧。フィレンツェの工房にてガラスアートを学び、その後フィレンツェ国立美術学院へ入学し画家であり舞台演出家 Luzzi Enrico に会う。「今の感情を大画面に絵描け」という彼の指導により感情を色にして身体を大きく動かしながら絵を描きだす。2014年フィレンツェ国立美術学院 Interior Decoration 科卒業(学士) 及び 2019年 Design and Management of Artistic exhibits 科卒業(修士)。

突然の父親の死をきっかけに「自分自身のカラダ」に興味を抱く。Butoh Dance を学び 2015年振付家ダンサーVirgilio Sieni との出会いにより、彼が指揮をとる「身体表現アカデミー」にてパフォーマンスアート、インプロビゼーションなど身体と空間と踊りの関係性を自らの体験を通じて学び、美術館、劇場、修道院、広場など様々な場でパフォーマンスに参加し、絵画やオブジェの表現にとどまらず、自身のアートの境界線をさらに広げる。2018年ダンサーPio Campo と出会いダンスセラピー (Maria Fux method)を学び「自分の感情を踊りで表現」する研究をスタートする。2019年より Palazzo Strozzi 美術館 教育プロジェクト Corpo libero に参加。さまざまな展示作品を視覚を通じてだけでなくカラダで体感することを発見する。2021年日本文化に触れ美意識と心を鍛えたいという願いからフィレンツェにて茶道を再び学び始める。

2016年 SRISAGallery Firenze にて観客が1人ずつ参加する色のパフォーマンスを行う(キュレーター PietroGagliano)。2020年 Chiasso Perduto Firenze にてアーティストインレジデンス&初の個展を行う(キュレーター Sandra M Pattin)。2021年 PIA.Palazzina Indiano Arte Firenze にて自然と身体の共存をテーマとしてアーティストインレジデンス&個展 NATURACORPO を行う。2022年 PIA.Palazzina Indiano Arte Firenze にて昨年のアート研究をさらに深めるため2度目のアーティストインレジデンス&個展 NATURACORPO collective art experience を行う。その他複数グループ展、パフォーマンスに参加。日本、フランス、イタリアにてコレクターが作品を保持。

2020年夫 Gregorio Ceccarelli の美容院「METAMORFOSI」のアートディレクションをスタート。茶室からインスピレーションをうけながら色彩学をとり入れたアートが存在するメディテーションルームのような空間演出を行いお客様が心からリラックスし元気になれる空間を追求している。

www.metamorfosisgregorio.com